

專心業務ニ勉勵セシメ度為念此旨場示也

や

大正十年十月廿八日 横濱船渠株式會社

上京ニ於ル高橋外四名ハ日本労働總同盟本部ニ松岡ヲ訪
問シ今後ノ運動方法ニ付協議ヲ為シテ在リ時帰平セルガ但
令事務等ニ待受ケル誠首致ニ付ニ先ト打合シ上固
体運動ヲ打切り各自隨意交渉ノ有利ナルヲ説キタル意見見
決定セズ其ノ促メ致シ

(十一月廿八日)

二十九日朝ニ誠首或工等約四五十名組合事務所ニ冬
寒ニ居リ... 後健一外二名ハ突然會社ヲ訪
問シ山口守衛長ト會見「自分等ハ會社ノ過激ナル事務ニ
從事シ健康ヲ害セリ然ルニ今因突然誠首セラレ療養ノ
途ナケレバ會社ノ囑託醫西ノ診断ヲ受ケタレト嘆願シタルニヨ
リ會社ニ於テハ囑託醫西ニテハ不安ノ懸念アルベケレバ市立十金
醫院ノ診断ヲ受ケラレヨト添書ヲ与ヘタルニ誠添書ヲ受取退出
セリ這ハ若レ會社ニ於テ諛要求ヲ容レザルニ於テハ之ヲ各トシ存社
ノ無情冷酷ヲ一般致ニ至テ表シ同情ヲ買ハントシタルカ如シ
今十時半頃ニ至リ解雇職工等ハ運動費ノ清算等ヲオシ居リ
シガ松岡駒吉ノ急遽來演アリ大熊庄三郎ヲ同伴シ郵船會
社事務山脇武夫ヲ訪問シ何事カ交渉シタル事實アリ右ノ重役